



# 富士フイルムグループ<sup>°</sup> 事業概要

2024年1月

富士フイルム ホールディングス株式会社

90<sup>th</sup>  
100

**FUJIFILM**  
Value from Innovation

## 将来に関する記述

---

本資料における業績予想及び将来の予測等に関する記述は、現時点で入手された情報に基づき判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれております。従いまして、実際の業績は、様々な要因によりこれらの業績予想とは異なることがありますことをご承知おきください。

# 会社概要

## 会社概要

社名	富士フイルムホールディングス株式会社 (英語表記名：FUJIFILM Holdings Corporation)	
代表者	代表取締役社長・CEO 後藤 禎一	
設立	1934年1月20日	
事業年度末日	3月31日	
資本金	404億円	(2023年3月31日時点)
連結売上高	28,590億円	(2022年度)
当社株主帰属当期純利益	2,194億円	(2022年度)
連結子会社数	273社	(2023年3月31日時点)
連結従業員	73,878名	(2023年3月31日時点)

## 株式情報

2024年1月1日時点

銘柄コード	4901
上場証券取引所	東京証券取引所
単元株式数	100株
発行済株式数	414,625,728株
発行可能株式総数	800,000,000株
定時株主総会	6月下旬
期末配当金/支払株主確定日	3月31日
中間配当金/支払株主確定日	9月30日
株主名簿管理人	三井住友信託銀行株式会社
株主優待制度	あり <a href="https://ir.fujifilm.com/ja/investors/individual/shareholder-benefits.html">https://ir.fujifilm.com/ja/investors/individual/shareholder-benefits.html</a>



富士フイルムグループパーパス

地球上の笑顔の回数を増やしていく。

わたしたちは、多様な「人・知恵・技術」の融合と独創的な発想のもと、  
様々なステークホルダーと共にイノベーションを生み出し、世界をひとつずつ変えていきます。

**FUJIFILM**  
Value from Innovation



————— コーポレートスローガン —————

## Value from Innovation

わたしたちはすべての活動に“オープン、フェア、クリア”の精神で臨みます。

# 富士フィルムの事業分野

## イメージング

- コンシューマーイメージング\*
- プロフェッショナルイメージング\*

4,103億円 14.4%

2,669億円 65%

1,434億円 35%



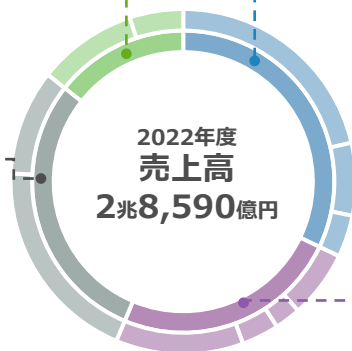
## ビジネスイノベーション

- オフィスソリューション
- ビジネスソリューション

8,381億円 29.3%

5,555億円 66%

2,826億円 34%



## ヘルスケア

- メディカルシステム
- バイオCDMO
- LSソリューション

9,179億円 32.1%

6,111億円 67%

1,942億円 21%

1,126億円 12%



## マテリアルズ

- 電子材料
- ディスプレイ材料
- 他高機能材料  
(産業機材・ファインミカ・記録メディア)
- グラフィックコミュニケーション

6,927億円 24.2%

1,806億円 26%

701億円 10%

1,000億円 14%

3,420億円 49%

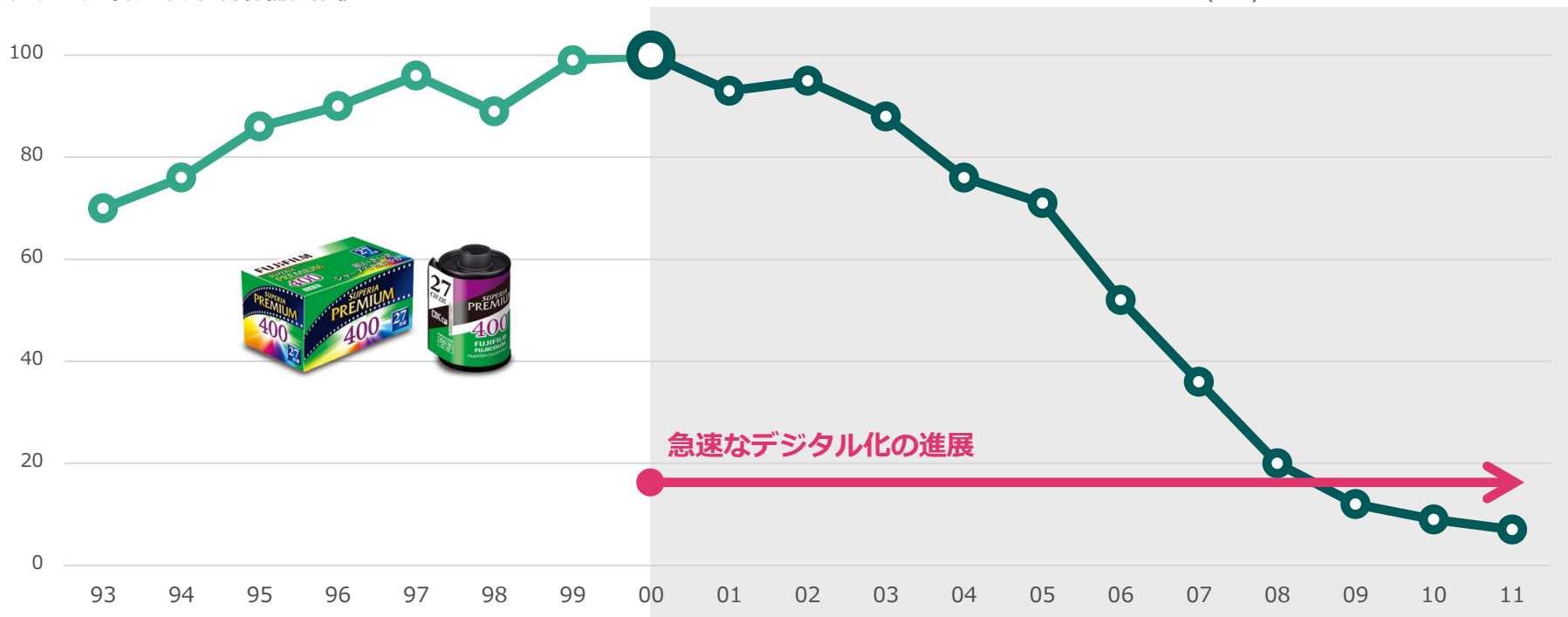


# 本業喪失の危機

## 2000年以降、本業である写真フィルムの市場が急速に縮小。

カラーフィルムの世界総需要推移

(指数)2000年総需要100とした場合の指数



# 新たな成長戦略の構築

ヘルスケアや高機能材料などの成長市場に経営資源を投入。

## 重点事業を定める3つのポイント



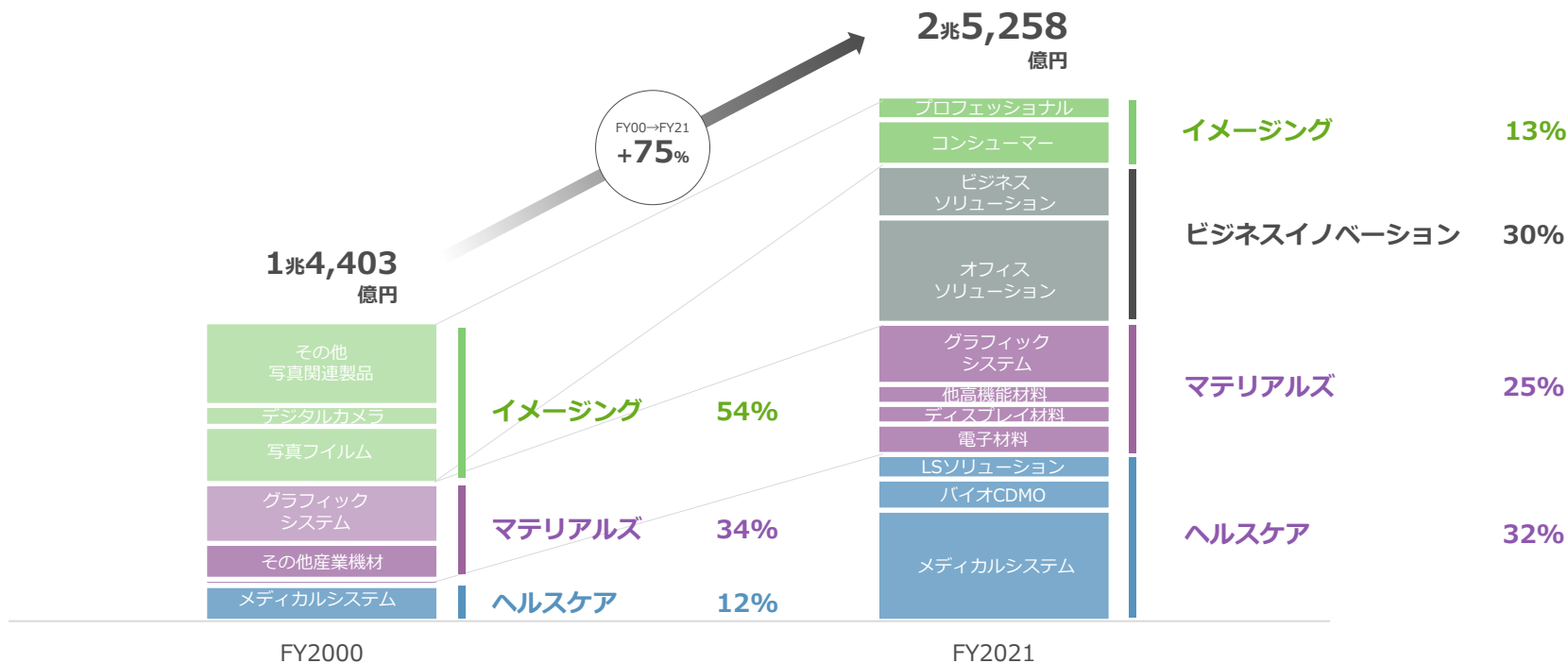
## 四象限マップにおける当社技術の棚卸（2000年代当時実施）

	既存市場	新規・近接市場
新規技術		
既存技術		



# 事業ポートフォリオの変化

2000年代以降、事業構造を転換  
事業ポートフォリオの強化と成長の加速により、収益構造が大幅に変化



# 富士フィルムのコア技術

基盤技術を基に生まれた、持続的に競争優位性を築くための核となる技術。  
新たな価値を共に創る、「共創」の核となり得る技術。

## コア技術



### 粒子形成技術

ビルドアップで粒子を形成する技術



### 機能性分子技術

有機化合物の分子構造を自在に変換、不可能を可能にする低分子を製造する技術



### 機能性ポリマー技術

有機化合物の分子構造を自在に変換、不可能を可能にするポリマーを製造する技術



### 酸化還元制御技術

有機化合物/無機化合物の連続的な反応をコントロールする技術



### ナノ分散技術

非混和性の物質を安定的に混ぜ合わせ、素材が持つ多彩な力を発揮させる技術



### 精密塗布技術

単層/多層の塗布機を、大面積で均一に形成する技術



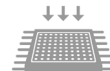
### 製膜技術

単層/多層/3次元構造のフィルムを成形する技術



### 精密成型技術

高精度な金型へ材料を精密に転写、固化する技術



### 撮影技術

被写体像をデジタルデータに変換し、制御する技術



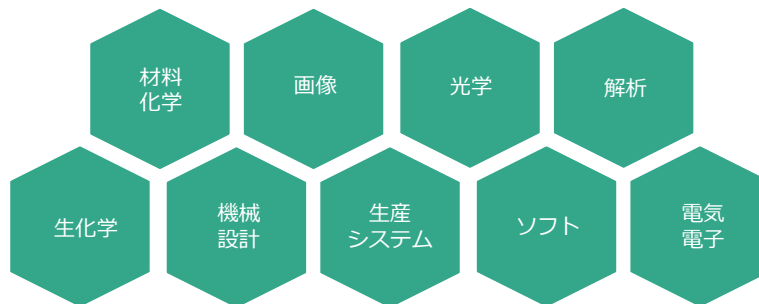
### システム設計

高画質な画像を、より速く確実に提供する技術



### MEMS技術

特徴ある圧電膜を応用した機械要素部品を設計/製造する技術



## 基盤技術



### バイオエンジニアリング技術

生物が元来持つ機能を活用し、予防・診断・治療を実現する技術

# 当社が目指す姿

「Sustainable Value Plan 2030 (SVP2030)」で掲げた目標を実現するために、2021年4月公表の中期経営計画「VISION2023」で定めた重点施策を推進し、サステナブル社会の実現に貢献していく。

事業ポートフォリオの強化と  
次なる飛躍への基盤を構築

ヘルスケア・高機能材料の成長  
加速と持続的な成長を可能とする  
事業基盤の構築

革新的な技術・製品・サービスを通  
じて社会課題の解決に取り組み  
サステナブル社会に貢献

## VISION 2019

売上高	2兆3,151億円
営業利益	1,866億円
CO <sub>2</sub> 排出削減 (2013年度比)	25%

## VISION 2023

売上高	2兆7,000億円
営業利益	2,600億円
CO <sub>2</sub> 排出削減 (2019年度比)	11% (2019年度比)

## SVP 2030

売上高	3兆5,000億円以上
CO <sub>2</sub> 排出削減 (2019年度比)	50%

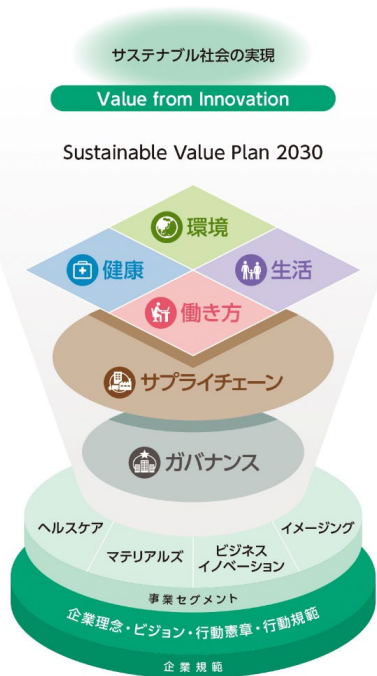
サステナブル社会の実現  
Value From Innovation

SVP2030の目標を実現するための  
具体的なアクションプラン

SVP2030重点分野/重点課題は次ページ

# SVP2030における目標：重点分野とマテリアリティ

SVP2030では、2030年に想定される「解決すべき社会・環境課題」と「富士フイルムグループの事業成長」の観点からマテリアリティを特定



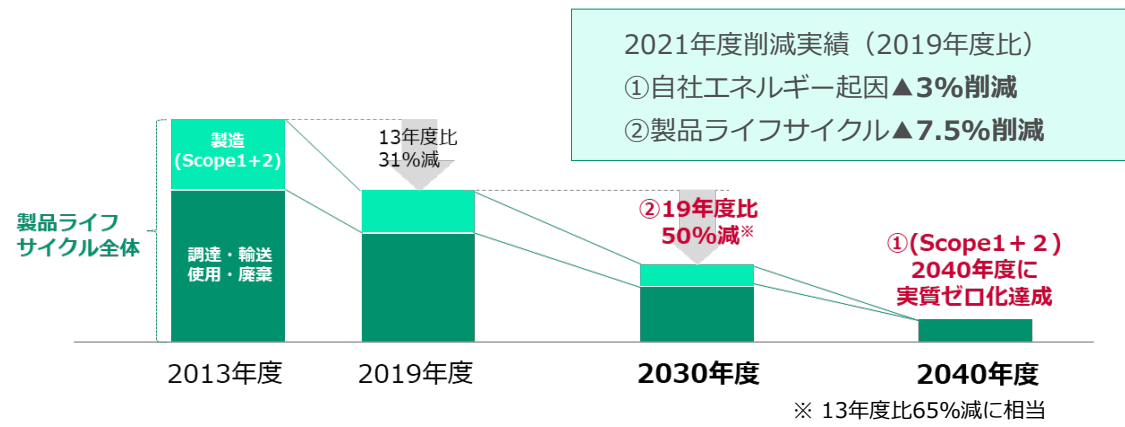
SVP2030重点分野／重点課題(マテリアリティ)	事業を通じた社会課題の解決	事業プロセスにおける環境・社会への配慮	富士フイルムグループが貢献するSDGsの目標
<p><b>環境</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 気候変動への対応</li> <li>② 資源循環の促進</li> <li>③ 脱炭素社会の実現を目指したエネルギー問題への対応</li> <li>④ 製品・化学物質の安全確保</li> </ul>	●●●●	●●●●	
<p><b>健康</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① アンメットメディカルニーズへの対応</li> <li>② 医療サービスへのアクセス向上</li> <li>③ 疾病の早期発見への貢献</li> <li>④ 健康増進、美への貢献</li> <li>⑤ 健康経営の推進</li> </ul>	●●●●	●●●●	
<p><b>生活</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 安全、安心な社会づくりへの貢献</li> <li>② 心の豊かさ、人々のつながりへの貢献</li> </ul>	●●	●●●●	
<p><b>働き方</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 働きがいにつながる環境づくり(ソリューション・サービス提供)</li> <li>② 多様な人材の育成と活用</li> </ul>	●	●●●●	
<p>事業活動の基盤</p> <p><b>サプライチェーン</b></p> <p>環境・倫理・人権などのCSR基盤をサプライチェーン全体にわたり強化する</p>			
<p><b>ガバナンス</b></p> <p>オープン、フェア、クリアな企業風土のさらなる浸透により、ガバナンス体制を改善・堅持する</p>			

# ESG | 環境への取り組み：削減目標・基本方針

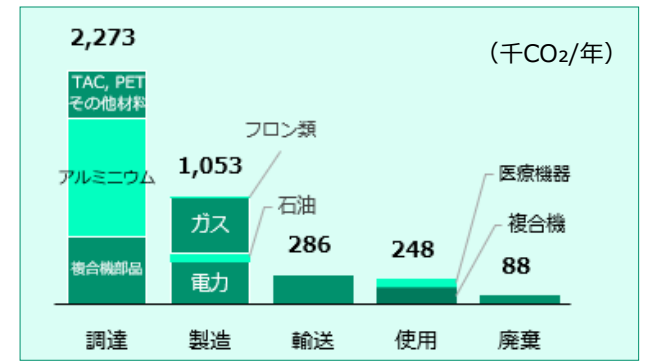
CO<sub>2</sub>排出の多い事業から単に撤退するのではなく、社会的ニーズに対する供給責任を果たしながら現行事業の低炭素化と低炭素ソリューションの開発・提供を通して脱炭素社会の実現に貢献する。

## 富士フイルムグループの脱炭素目標

- ① 2040年度までに自社が使用するエネルギー起因のCO<sub>2</sub>排出を実質的にゼロとする
- ② 原材料調達から製造、輸送、使用、廃棄に至るまでの自社製品のライフサイクル全体において2030年度までにCO<sub>2</sub>排出量を50%削減（2019年度比）する



## 製品ライフサイクルステージ別 GHG排出量 (2021年度)

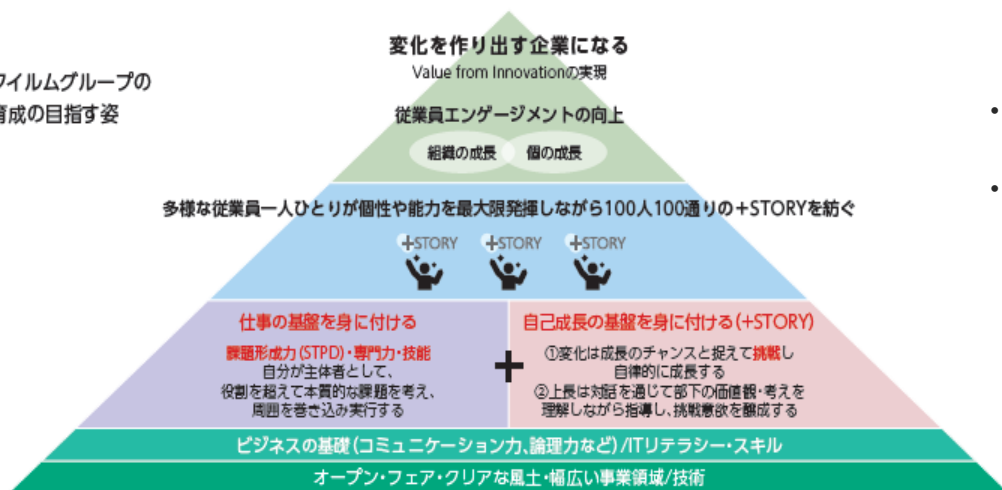


# ESG | 社会への取り組み：人的資本への取り組みにおける基本方針

事業構造の転換を果たした、変化を恐れずに挑み続けるマインドが富士フイルムグループのDNAであり、強さの源泉。「個の成長」と「組織の成長」のスパイラルアップを重視し、変化を成長のチャンスと捉えて挑戦する従業員を育成し、高い従業員エンゲージメントを目指す。

## 富士フイルムグループの人材育成の目指す姿

富士フイルムグループの  
人材育成の目指す姿



- 多様な事業を成長させるため強いリーダーシップを発揮できる人材の育成が不可欠
- 従業員一人ひとりが「変化」を成長のチャンスと前向きに捉えて、挑戦することを重視。  
自己成長支援プログラム「+STORY (プラスストーリー)」を通して部下・上長との対話を実施

# ESG | ガバナンスへの取り組み1/2 : 基本方針と体制

## コーポレートガバナンスの基本方針

誠実かつ公正な事業活動を通じて、富士フィルムグループの持続的な成長と企業価値の向上を図るとともに、社会の持続的発展に貢献することを目指しており、その実現のための基盤として、コーポレート・ガバナンスを経営上の重要な課題と位置付けている

### 当社コーポレート・ガバナンス体制のポイント

#### 機関設計

- 「監査役会設置会社」を選択
- 取締役会の諮問機関として、任意の指名報酬委員会を設置

#### 取締役会

- 取締役の員数を12名以内とし、うち3分の1以上を独立社外取締役とする
- 取締役会議長とCEOを分離し、業務執行の「監督」と「決定」の役割を明確化
- 取締役の任期は1年とし、取締役の使命と責任をより明確化

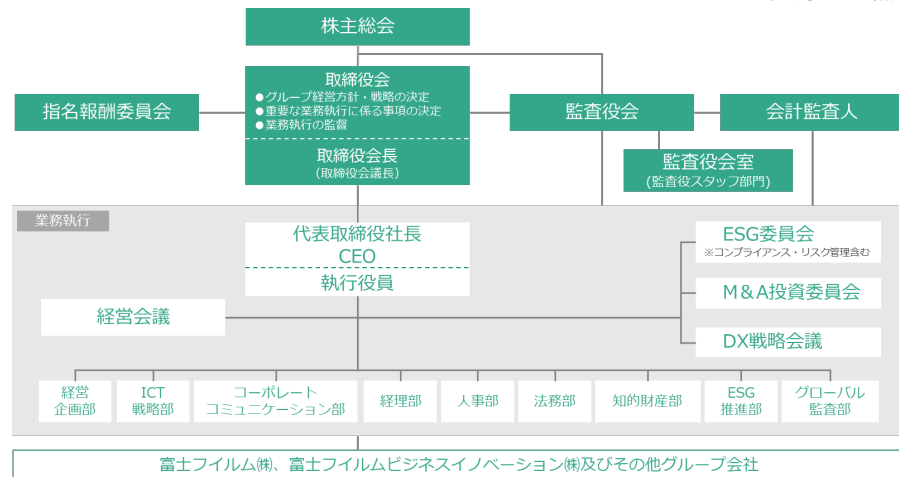
#### 指名報酬委員会

- 取締役会の決議により選任された3名以上の委員で構成し、委員長は社外取締役とする（現在3名の委員のうち、委員長を含む2名が独立社外取締役）
- 取締役会の諮問機関として、CEOのサクセッションプラン及び取締役の報酬制度等の手続きに関する客観性・透明性を確保することを目的とする

## コーポレートガバナンス体制

コーポレートガバナンス・ガイドラインを制定・公表。グループ経営の基本方針と戦略の決定、重要な業務執行に係る事項の決定並びに業務執行の監督という取締役会の役割・責務と経営の基本方針など、当社のコーポレート・ガバナンスについて規定

2023年7月1日時点



## ESG | ガバナンスへの取り組み2/2：コーポレートガバナンス体制強化の変遷

コーポレート・ガバナンスのさらなる強化のため、「女性取締役の増員」、「スキル・マトリックスの再検証」、「自己株式の消却」、「役員報酬のKPIとしてESG指標（脱炭素目標に対する達成度合い）の組み入れ」を実施

	2006年度～	2015年度～	2020年度～
機関設計	2006 持株会社体制へ移行	2018 任意の指名報酬委員会の設置	2021 CEO/取締役会議長の分離
独立社外取締役の比率向上	2006 社外取締役選任	2014 2名に増員 2017 3名に増員、1/3以上確保 2018 4名に増員	
取締役会の多様性確保		2018 女性取締役の選任	2020 スキル・マトリックスの公表 2022 女性取締役の増員 2022 スキル・マトリックスの再検証
取締役会の実効性向上		2015 コーポレートガバナンス・ガイドラインの制定 2015 取締役会の実効性評価を開始 2019 外部機関を活用した実効性評価を実施	2022 自己株式の消却
役員報酬設計	2007 ストックオプション制度導入 2009 役員退職慰労金制度の廃止		2021 譲渡制限付株式報酬及び中期運動型株式報酬による株式報酬制度の導入(ストックオプション制度の廃止) 2022 中期業績運動型株式報酬のKPIとしてESG指標を追加



# ヘルスケア

● **メディカルシステム**

● **バイオCDMO**

● **LSソリューション**

- ライフサイエンス
- 医薬品
- コンシューマーヘルスケア
- CRO(事業推進室)

# 富士フィルムのヘルスケア

「予防」「診断」「治療」の領域において、アンメットメディカルニーズへの対応や医療サービスへのアクセス向上などの社会的課題を解決することで、健康的な社会づくりに貢献していく。

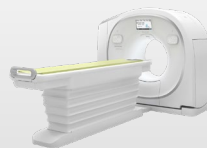
## 予防

- ワクチン原薬
- 機能性化粧品
- サプリメント



## 診断

- 画像診断システム
- メディカルIT
- 内視鏡
- 体外診断用医薬品(IVD)
- 超音波システム



## 治療

- バイオCDMO
- 細胞/遺伝子治療
- 細胞培養用培地
- 医薬品
- 低分子医薬CDMO



# メディカルシステム：全体戦略

当社の強みであるAI・IT技術と、幅広い製品ラインアップの融合により、新たな価値を創造し、世界の健康な暮らしを支えていく。



\* 非破壊検査機材(P52)は、2024年3月期より、メディカルシステム事業に移管されています。

83

国・地域  
5.3 千億円  
売上高  
FY2021

196

国・地域  
1.0 兆円  
売上高  
FY2030

# メディカルシステム：医療IT

## PACS：医用画像情報システム

Picture	[画像]
Archiving	[ファイル保管]
Communication	[通信]
System	[システム]

### 医用画像情報診断システム「SYNAPSE」シリーズ



- 当社が展開するPACS「SYNAPSE」シリーズは、ワールドワイドで5,812施設に展開<sup>(\*1)</sup>
- 各エリアの有力病院で高い評価を受け、世界トップシェアを獲得<sup>(\*2)</sup>。

(\*1) 2022年8月時点、「Synapse」シリーズ設置台数

(\*2) 2021年度末時点Signify Research Report調べ

## AI活用への取り組み

2018年4月に「REiLI\*」コンセプトを発表。

当社の特長的なモダリティにAI技術を活用した製品を矢継ぎ早に投入することで、新たな価値を提供

\*当社が開発を進める医療画像診断支援、医療現場のワークフロー支援、そして医療機器の保守サービスに活用できるAI技術のブランド名称。

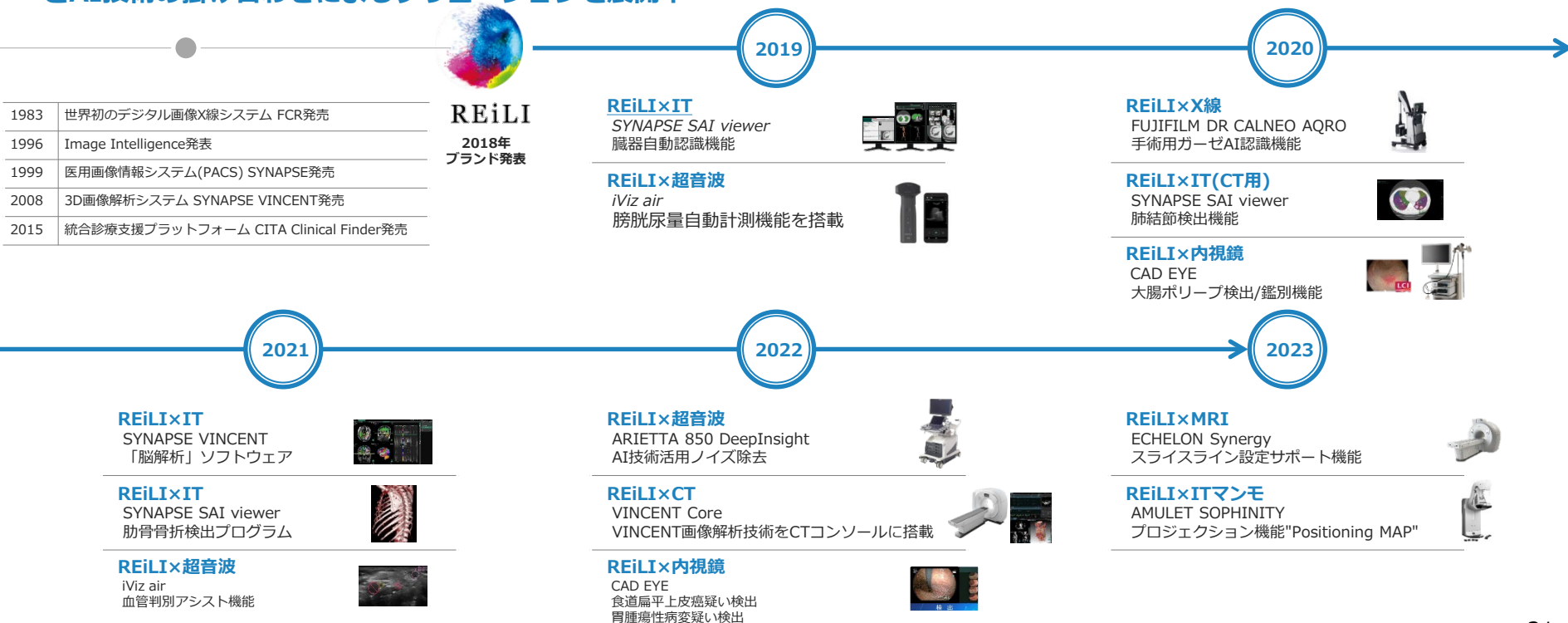


REiLI

# メディカルシステム：医療IT

## AI技術を活用した製品の展開

2019年7月にAI技術を活用できるプラットフォーム「SYNAPSE SAI viewer」のリリース（日本国内）以降、各モダリティとAI技術の掛け合わせによるソリューションを展開中



# メディカルシステム：X線画像診断

**X線画像診断機器では設計・部材調達見直しにより大幅にコスト削減を実現し、収益性を向上**

## X線フィルム

- 全体の需要が緩やかに減少する中、シェアアップを図る。
- 新興国では出力フィルムの需要が堅調に推移。

## X線画像診断機器

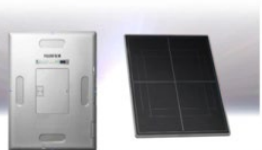
### 〉 FCR Fuji Computed Radiography

- 当社が世界で初めて開発し、1983年に発売。
- 高いシェアを誇る。

### 〉 DR Digital Radiography

- 独自の画像処理など差別性のある技術、特長ある機能を搭載した製品を発売。

DR カセット



CALNEO Smart

DR 回診車



CALNEO AQRO CALNEO CROSS

DR マンモグラフィ



AMULET Innovality

### フィルム方式の場合



X線フィルムに画像を焼き付け、暗室で現像

フィルムで読影

### CR方式(Computed Radiography)の場合



イメージングプレート(繰り返し使用は可能だが消耗品)に、X線画像情報を蓄積し、デジタル化。当社開発のものをFCRと呼ぶ。

### DR方式(Digital Radiography)の場合

X線を感じると、フラットパネルディテクターで電気信号が発生し、画像を生成。フラットパネルディテクターは装置に組み込まれており、消耗品は不要。

モニターで読影  
フィルムへの出力も可能

## メディカルシステム：CT・MRI

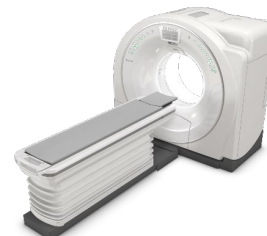
高画質で優れた機能性を持つ、CT・MRIシステムを幅広いラインアップで提供

### CT：Computed Tomography（コンピュータ断層撮影）

設置性に優れたコンパクトボディに加え、CT装置に求められる「被ばく低減」と「高画質化」を両立した製品をラインアップ。



「SCENARIO View」



「Supria Grande」

### MRI：Magnetic Resonance Imaging（磁気共鳴画像）

高画質、高機能化だけではなく、ワークフロー改善や被検者への安心性を追求したラインアップ。



「ECHELON Smart Plus」



「APERTO Lucent Plus」

# メディカルシステム：内視鏡

独自の画像処理技術を活かした差別化製品の拡販により売上成長を目指す。

## 内視鏡

写真事業で培った画像処理技術や細径化技術を活かし、競争力のある高付加価値製品を投入

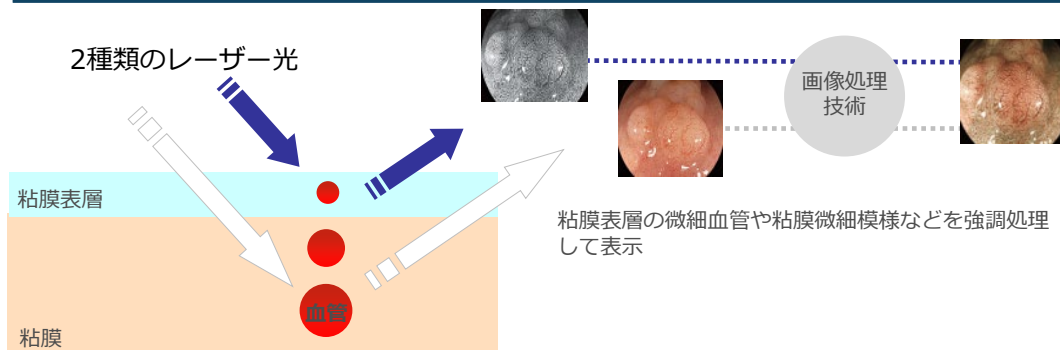
- ・ レーザー光源搭載の内視鏡システム
- ・ 経鼻内視鏡 鼻から通す極細の内視鏡で患者の身体への負担を軽減
- ・ ダブルバルーン内視鏡



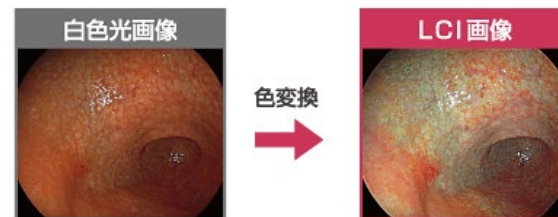
## LASEREO

当社の画像処理技術を組み合わせ病変部の視認性を向上

BLI (Blue LASER Imaging)機能



LCI (Linked Color Imaging)機能



赤みを帯びた色はより赤く、白っぽい色はより白くなるように色の拡張・縮小を行い、粘膜の微妙な色の違いを強調し、炎症診断をサポート



# メディカルシステム：超音波

従来の携帯型を中心とした製品ラインアップに、富士フィルムヘルスケアが強みを持つ据置型が加わり、幅広い領域をカバーし成長を加速

## 超音波

- 富士フィルムでは、POC\*向け携帯型超音波画像診断装置の分野において高い開発力を持ち、幅広い製品を展開。
  - \* Point Of Careの略。患者の目元や在宅で検査を行い、治療方針の判断・処置を行うこと。
- 富士フィルムヘルスケア\*では、据置型超音波画像診断装置の製品が充実。
  - \* 2021年3月31日に株式会社日立製作所の画像診断関連事業を継承した富士フィルムヘルスケア株式会社を買収。



## メディカルシステム：IVD(体外診断)

事業領域拡大とエリア拡大により、売上・利益を大幅に成長させる。

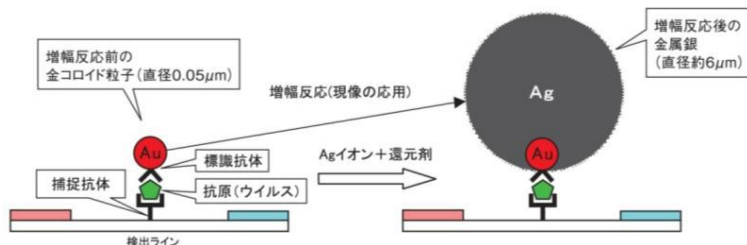
### IVD(体外診断)

- 診察室や病院のベッドサイドなど、より患者に近い場所で行われる検査(POCT:Point of Care Testing)タイプのIVDシステムを免疫学POCT市場や生化学POCT市場に提供。
- 2017年度に和光純薬の臨床検査薬事業が加わり、IVD製品群が拡充するとともに、国内ほぼすべての病院へのアクセスが可能に。
- 動物ヘルスケアでは、「富士ドライケム」や動物ホルモン検査「イムノAU10」などのPOCTシステムや、動物検体受託検査など、幅広い分野に展開。

### 超高感度イムノクロマト法迅速診断システム「IMMUNO AG」シリーズ

写真の現像で用いる銀塩増幅技術の応用により、検体中のウイルスや細菌に反応する抗体標識の周りに銀を結晶化させることで、一般的なイムノクロマト法診断薬に比べて、標識のサイズが直径約100倍となり、判定ラインの視認性を飛躍的に向上させる事に成功。発症初期などウイルス等が少ない段階における検出精度を大幅に向上。

COVID-19の他、インフルエンザ、アデノウイルス、RSウイルス、溶連菌、マイコプラズマなどの検査キットを発売中。

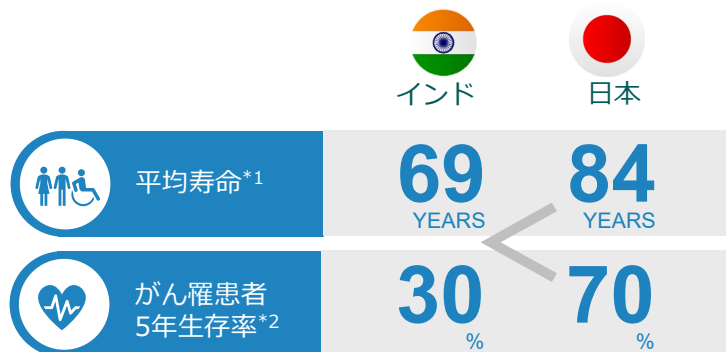


「IMMUNO AG1」



「IMMUNO AG2」

# メディカルシステム：新興国向け健康診断サービス事業の拡大



\*1 Source: WORLD BANK

\*2 Source: "GLOBOCAN 2020" database compiled by the International Agency for Research on Cancer

なぜインドは低いのか？

一つの要因として

健康診断の文化が定着していない

がんの早期発見・治療を実現できていない\*

(\*入手した情報に基づく当社の見解)

## NURA

Sustained Health with Active-AI Screening

### がん検診をはじめ生活習慣病検査サービスを提供する健診センター

- Phase 1** AI技術やビッグデータを用いて受診者へのタイムリーなフィードバック  
経済産業省が推進する「インド太平洋地域サプライチェーン強靱化事業」に採択されている。本事業では、ブロックチェーン技術を用いたデータ連携基盤を構築し、NURAで得られた健診データを、AI技術を用いて分析し受診者へのフィードバックなどに活用する仕組みを実証する。
- Phase 2** 他医療機関とデータ連携・共有による新たなサービス

検診文化の定着

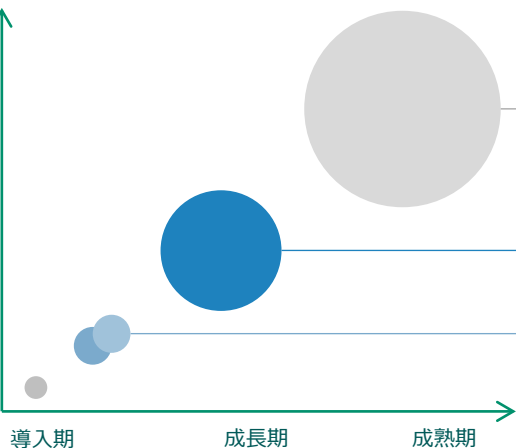
NURAセンターの件数



# バイオCDMO：事業領域

抗体医薬等の医薬品に加え、次世代のバイオ医薬品の開発発展により、CDMOへの委託需要がさらに拡大

市場規模



## 低分子医薬品

目的とする化合物を化学合成して作られる医薬品。製造コストが比較的安価

## 当社バイオCDMO事業

### 抗体医薬品 (CDMO市場でのCAGR(FY18-FY28)+11%)

- 細胞などに薬効成分であるタンパク質を作らせて製造
- 製造が難しい一方、副作用が少なく、低分子医薬品では治療が困難であったがんや希少疾患への高い効果が期待できる
- 設備投資や品質管理にかかるコストが低分子医薬品に比べ高額

### 細胞治療薬・遺伝子治療薬(CDMO市場でのCAGR(FY18-FY28)+29%)

- 細胞治療**：細胞そのものを投与して治療効果が発揮される医薬品
- ex-vivo遺伝子治療薬**：標的細胞を取得後、治療に寄与する遺伝子を導入し、その細胞を投与することで効果を発揮する医薬品
- in-vivo遺伝子治療薬**：遺伝子を搭載したベクターや、特定の細胞・組織で増殖するウィルスを投与することで効果を発揮する医薬品

再生医療

細胞治療

遺伝子治療

組織移植

細胞移植

ex-vivo

in-vivo

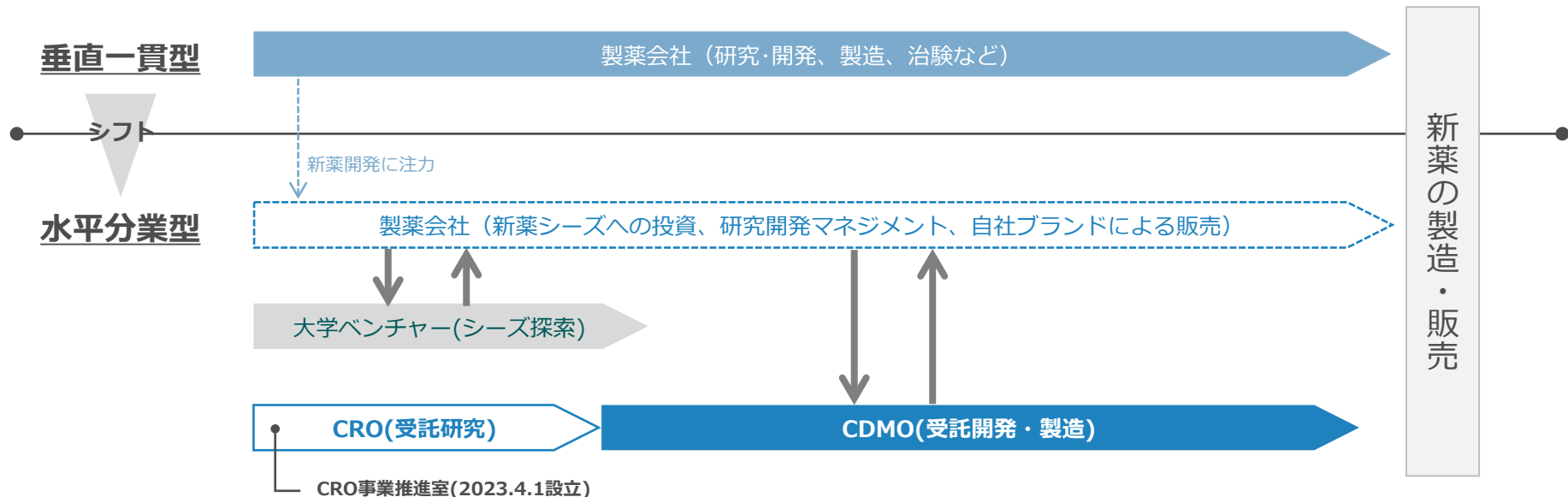
# バイオCDMO：CDMOビジネス成長の背景

バイオ医薬品業界では水平分業が進み、CDMOビジネスが伸びている。

**CDMO**：Contract Development and Manufacturing Organization (医薬品開発製造受託機関)

生産プロセスの開発受託及び製造受託を行う会社・組織。

生産プロセス開発や安定性試験、治験薬の開発・製造、市販薬の製造など幅広いサービスを製薬企業などに提供する。



\*経済産業省 第9回 産業構造審議会 商務流通情報分科会 バイオ小委員会資料を参考に当社作成

# バイオCDMO：当社の強み

当社の高度なコア技術に、買収により獲得したバイオテクノロジー技術と融合し、最新鋭の設備を加えて、バイオCDMO事業を推進

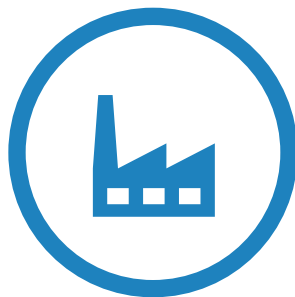


## 買収\*1によって 獲得した技術

- 細胞培養/精製・評価技術
- プロセス開発技術・ノウハウ
- 豊富なトラックレコード

\*1 過去のM&A

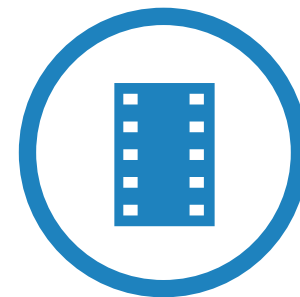
- 2011年：MSD Biologics/Diosynth  
(現FUJIFILM Diosynth Biotechnologies)
- 2014年：Kalon Biotherapeutics  
(現FUJIFILM Diosynth Biotechnologies)
- 2019年：Biogen (Denmark) Manufacturing  
(現FUJIFILM Diosynth Biotechnologies)



## 先進設備

- 少量～大量生産まで対応可能な設備
- 世界トップレベルのモバイルクリーンルーム\*2
- 最新鋭のプロセス開発設備

\*2 バイオセーフティレベルで、レベル3まで対応可能。商用生産設備としては世界トップレベルのモバイルクリーンルーム

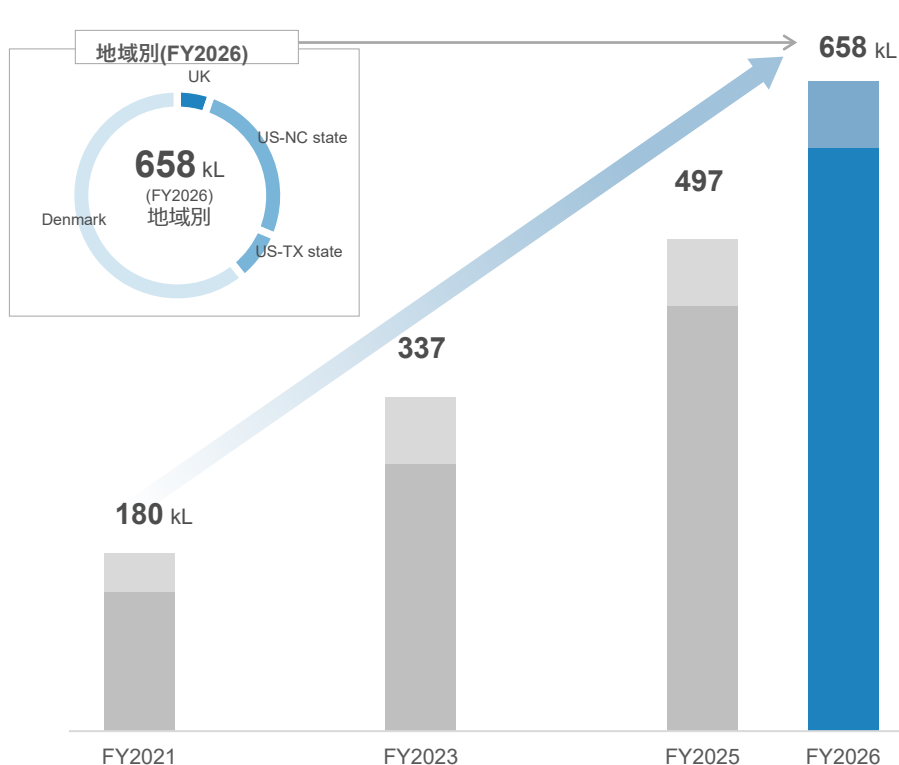


## 自社で培った 高度な技術

- 一定条件製造技術
- エンジニアリング技術
- 生産プロセス技術

# バイオCDMO：製造能力拡大計画

各モダリティおよび各地域において大規模な設備投資を行い、バイオCDMO事業の成長を加速させる。



FY2021→FY2026

## ■ 組換えタンパク(微生物培養)

市場成長に対応した設備投資を継続

1.5x

## ■ 細胞/遺伝子治療薬

### 遺伝子治療薬

- 市場成長率より速いペースで製造能力を拡大する
- 高生産性技術を確立し、現行製造方法の課題(複雑な製造工程/量産化困難/高コスト)を解決する

### 細胞治療薬

他家細胞に注力し、高生産性技術の確立を目指す

4.0x

## ■ 抗体薬 (動物細胞培養)

- 欧州・北米での製造設備拡大を進める
- 連続生産システムおよび従来型バッチ生産システム両方を強化

4.2x

# バイオCDMO：グローバル製造開発受託体制

## 主要市場の欧米拠点において、治験薬から上市品、生産プロセス開発から原薬製造・ 製剤化・パッケージングまで対応

2022年12月現在

(低分子医薬品を除く)

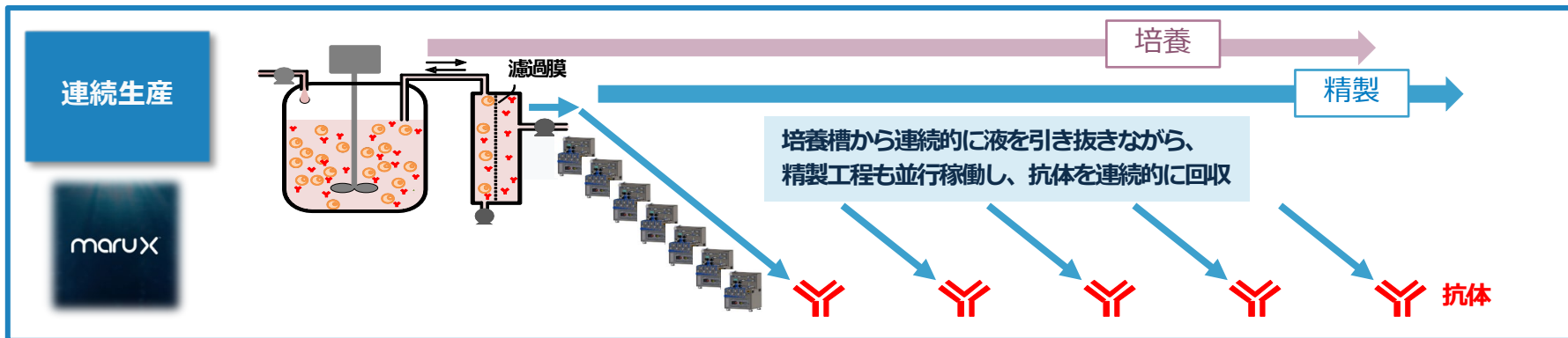
	北米				欧州		アジア	
	ノースカロライナ 米国	テキサス 米国	カリフォルニア 米国	ボストン 米国	ノースカロライナ 米国	ピリンガム 英国	ヒルロッド デンマーク	富山 日本
	 	 	 	 	 	 	 	 
(買収・稼働開始年)	(2011年買収)	(2014年買収)	(2022年買収)	(2022年稼働)	(2025年稼働)	(2011年買収)	(2019年買収)	(2026年稼働)
原薬：抗体薬	●	●			●	●	●	●
原薬：組換えタンパク製剤	●					●		
原薬：遺伝子・細胞治療薬		●	●	●		●		
原薬：ワクチン	●	●			●	●		●
製剤		●	●		●	●	●	●
組立・ラベル貼付・梱包					●	●	●	●





# バイオCDMO：連続生産システムとは

連続生産技術において、業界初となる  
「培養～精製までの一貫連続生産可能な500Lスケールの生産設備」を開発



連続培養槽



500L 培養槽

自動連続精製装置：Symphon X



自動連続精製装置  
(7台を連結)

# バイオCDMO：連続生産システムの特徴

## 2023年よりGMP稼働を開始予定 / 製薬企業数社と受託交渉中

	当社連続生産システムの特徴	バッチ生産
品質	<ul style="list-style-type: none"> <li>バッチ生産と比べ<b>高純度</b>となる。</li> <li>バッチ生産では困難な<b>不安定な抗体</b>を製造可能</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>不安定な抗体は製造が困難</li> </ul>
生産量	<ul style="list-style-type: none"> <li>生産日数を調整することで、<b>小～大ロットまで同一設備で製造可能</b></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li><b>ロットサイズ毎に異なる製造設備への切り替えが必要</b></li> </ul>
設備投資・製造コスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>バッチ生産と比べて、<b>設置スペースを25～75%削減</b></li> <li><b>設備投資額を同25～75%削減</b></li> <li><b>抗体の単位当たり製造コストを同25%削減</b>（当社調べ）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li><b>製造量に応じたサイズの培養槽への逐次投資が必要</b></li> </ul>
製造技術	<ul style="list-style-type: none"> <li>「細胞密度自動制御システム」と「連続的な培養状態の計測技術」が必要で自社開発済</li> <li><b>自動連続精製装置*</b>においても「自動制御システム」を自社開発済</li> </ul>	-
培地	<ul style="list-style-type: none"> <li>連続生産に適した培地が必要で、当社は<b>高品質な専用培地を開発済</b></li> </ul>	-

(\*自動連続精製装置や計測技術はバッチ生産にも活用可能)

# バイオCDMO：連続生産システムのロードマップ

商用スケール (500L) での高密度培養と、培養～精製全工程の一貫連続化を実現し、業界をリード  
2,000L (バッチ生産の20,000Lに匹敵する生産性) へのスケールアップ開発も実施中



## FY2019

業界初となる「培養～精製  
までの一貫連続生産技術」  
を開発



## FY2020

英国で「培養～精製までの一貫連  
続生産が可能な500Lスケールの  
生産設備を開発・導入

PoC data(実証データ)を取得



FY2021



## FY2022

- 2000Lスケールでの高密度培養の開発を実施中
- 2,000Lスケールでの連続精製技術は対応済み



## FY2023

英国に500L培養タンクでの連  
続生産システムによるGMP製  
造が可能な設備を導入



FY2024



FY2025



## FY2026

米国に500L培養タンクでの連  
続生産システムによるGMP製  
造が可能な設備を導入

maruX

# LSソリューション(ライフサイエンス)

細胞治療、及び新薬の研究開発・製造の領域でソリューションを提供し、  
アンメットメディカルニーズへの対応に貢献する

## 細胞治療プロセス開発・製造受託 事業

- Fujifilm Cellular Dynamics, Inc.(FCDI) のiPS細胞をコアに、富士フィルム独自のエンジニアリング技術やグループ各社が持つ技術リソース・設備を活用し、シナジーを創出する
- それをプラットフォームとして、協業パートナーとのアライアンスによる効率的な研究開発を推進するとともに、細胞治療薬の開発・製造受託ビジネスを推進する

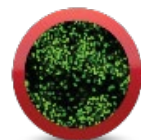


GMP製造施設：i-FACT  
(米国ウィスコンシン州マディソン)

**i-FACT**  
Innovation Facility for  
Advanced Cell Therapy

## 医薬品の研究開発・製造支援 事業

- 創薬支援用ヒトiPS細胞をはじめとする細胞・培地・サイトカイン・試薬等関連製品の提供を通じ、効率的な新薬の研究開発から製造プロセスに貢献
- 特に培地は、抗体薬の需要増にあわせて需要が大きく伸長



iPS細胞



培地



試薬



サイトカイン

# LSソリューション(ライフサイエンス:培地)

## 培地

細胞育成と細胞から産生される最終目的物の生産を実現するために不可欠な重要原料。

「環境+栄養+情報」を細胞に提供する機能を持つ。

人それぞれ味に対する嗜好があるように、細胞や細胞の生産物別に最適な組成が異なる。

“情報”	インスリンなど
“栄養”	アミノ酸、糖など
“環境”	生理食塩水(類似)

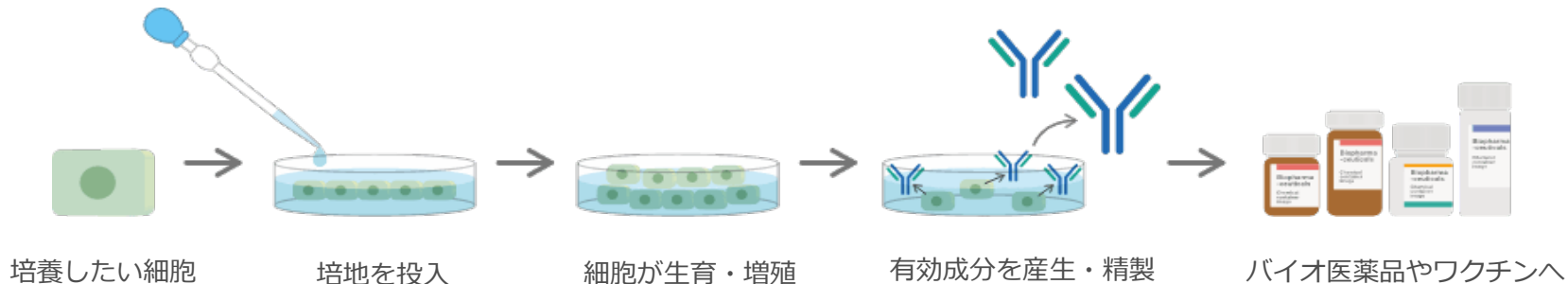
### 情報機能

細胞種類毎に成分種類・濃度とも大きく異なる。

### 基礎機能

細胞種類が異なる場合においても、成分は比較的共通。

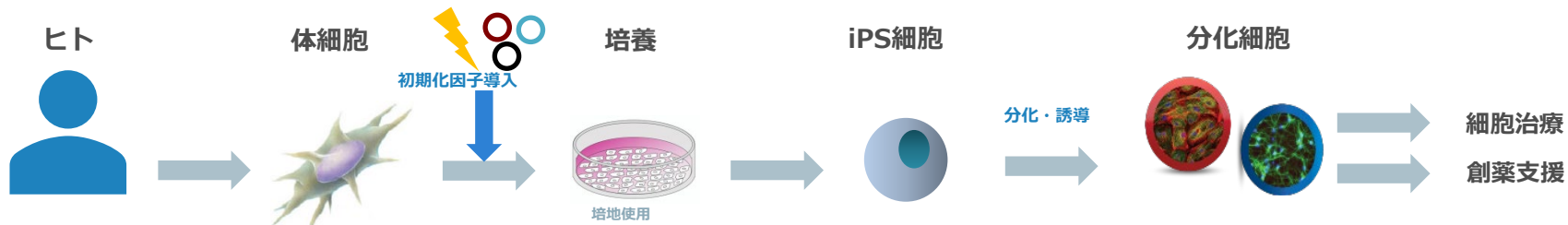
## 【培養プロセス】



# LSソリューション(ライフサイエンス:細胞)

## iPS細胞(iPS=induced Pluripotent Stem)

ヒトの皮膚や血液由来の体細胞に、少数の初期化因子（遺伝子）を導入することにより人工的に作られ、ほぼ無限に増殖する能力（**自己増殖能**）と、様々な組織や臓器の細胞に分化する能力（**多分化能**）をもつ人工多能性幹細胞のこと



### 【主な細胞の比較】

	自家細胞	他家細胞（細胞提供者（ドナー）から採取した細胞）		
		体性幹細胞	体細胞	多能性幹細胞
定義	患者様本人の細胞	生体内にあり、新しい細胞に分化して組織を修復、再生する能力のある細胞	最終分化して体の組織や臓器となった細胞	<b>自己増殖能</b> 及び、いろいろな細胞に分化できる <b>多分化能</b> をもつ細胞
具体例		骨髄由来幹細胞、間葉系幹細胞(MSC) 等	T細胞、皮膚細胞、NK細胞 等	<b>iPS細胞</b> (体細胞に遺伝子導入し作成)
大量製造	-	限定的	限定的	<b>可能(増殖能が高い)</b>
製造コスト	高い	中程度	中程度	量産技術が確立すれば <b>低コスト</b>

## LSソリューション(ライフサイエンス:細胞)

- ・ iPS細胞は、当社技術で量産技術を確立することにより、安定製造・安定供給・低コスト実現が可能
- ・ 次世代の治療モダリティ・創薬支援における重要な材料にもなる

### 細胞治療分野

#### 業界の課題

細胞供給及び品質の安定化

- ① ドナー不足による原料細胞の**供給不安定**
- ② 原料細胞のドナーの**個体間差**による**細胞品質の不安定**

#### 解決策

iPS細胞を活用したモダリティ

- ① iPS細胞は無限に増殖するため**安定供給**可能
- ② **同一のiPS細胞**から製造可能で、**製造・品質も安定**

### 創薬支援分野

#### 業界の課題

新薬開発の効率化、コスト削減

- ① 疾患メカニズムが複雑で**非臨床試験において適した評価系がない**ケースがある
- ② 非臨床試験（動物試験）では認められなかった毒性が、臨床試験で認められ、開発中止となるケースがある（**動物とヒトの差**）

#### 解決策

ヒト由来iPS細胞を使った創薬支援

- ① 患者様由来体細胞から作成した**iPS細胞による疾患メカニズム解明**
- ② **臨床試験前に疾患特異的iPS細胞を用いた**毒性試験、薬効試験

## LSソリューション(医薬品)

- 「治療」領域を担う中核事業として、医療用医薬品の研究開発・生産・販売を行っている。
- 40年以上にわたる抗感染症領域に対する知見を活かし、近年は、国内でペニシリン系抗生物質の合成および無菌製剤の製造を行う唯一のメーカーとして、製造受託にも注力

### 低分子医薬品

20世紀初頭に開発された、目的とする化合物を化学合成して作られる医薬品。

	低分子医薬	バイオ医薬(抗体医薬)
分子量	小さい(多くは500以下)	非常に大きい(数千~約15万)
構造	安定した化学構造	複雑で不均一性がある
製造方法	化学合成	細菌や微生物を用いて生産
製造・開発費	低い	非常に高い
剤形	錠剤だけでなく多様	主に注射剤

### 抗菌薬

細菌を死滅させたり、増殖を抑制するための医薬品。

	当社製品
ペニシリン系	ペントシリン®
セフェム系	トミロン®、ラリキシン®
キノロン系	オゼックス®、パシル®
フルオロケトライド系	開発番号 T-4288：日本での承認申請中



“抗菌薬”と“抗生物質”



\*上記以外に、受託製造も行っている。



## LSソリューション(医薬品)

- 脂質ナノ粒子 (LNP)やリポソームなどのDDS技術を用いた製剤のプロセス開発・製造受託事業を推進。
- 既存薬のみならず、次世代医薬品の核酸医薬品や遺伝子治療薬への応用展開も目指して、DDSの研究開発に取り組む。

### リポソーム製剤 | 脂質ナノ粒子(LNP:Lipid Nanoparticle)

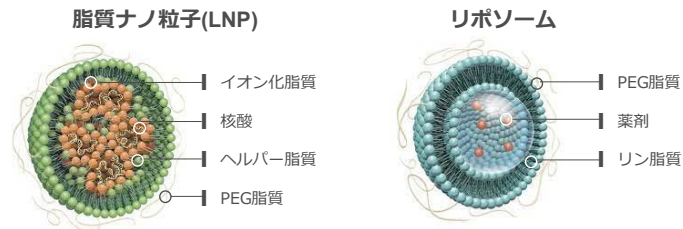
細胞膜や生体膜の構成成分である有機物のリン脂質などをカプセル状にした微粒子(リポソーム)の中に薬剤を内包した製剤

DDS素材

#### 〉 ドラッグ・デリバリー・システム(DDS : Drug Delivery System)

必要な量の薬物を、必要な部位に、必要なタイミングで届ける技術

☛ 少量の薬物投与で効果の増強と副作用の軽減が期待



国内初の商業生産に対応したリポソーム製剤工場  
(富士フィルム富山化学 701工場)



#### リポソーム製剤関連の当社パイプライン

2023年5月時点

開発番号	薬効・適応症	剤形	地域	開発段階
FF-10832	進行性固形がん治療薬(ゲムシタピン*1リポソーム)	注射	米国	PhI
FF-10850	進行性固形がん治療薬(トポテカン*2リポソーム)	注射	米国	PhI

\*1 イーライリリー社が開発した抗がん剤で、肺がん、膵がん等に使用。  
2022年5月より、米国Merck&Co.,Inc.と共同で、免疫チェックポイント阻害剤「キイトルーダ®」との併用試験(Ph2a)を米国で開始。

\*2 英国グラクソ・スミスクライン社が開発した抗がん剤で、現在は、スイスのノバルティス社が販売。  
卵巣がん、小細胞肺がん、子宮頸がんなどに使用。

# LSソリューション(コンシューマーヘルスケア)

## 2000年代における「第二の創業」と化粧品事業の立ち上げ

写真フィルムで培った技術の棚卸しを行い、今後の成長領域として新たに化粧品・サプリメント市場に参入

フィルムの主原料は  
肌と同じ**コラーゲン**



コラーゲン

**コラーゲン**

フィルムの主原料

真皮の約70%を構成

写真プリントの  
**抗酸化技術**を応用

酸化制御なし      酸化制御あり



25年後

**酸化**

写真の色あせ

シミや老化の原因

感光・発色に活用した  
**ナノテクノロジー**を駆使

従来      新ナノテク



**ナノテクノロジー**

感光・発色に活用

成分の浸透・吸収

化粧品

サプリメント



**2006**

機能性スキンケア化粧品「エフ スクエア アイ」発売  
通信販売スタート



**2007**

スキンケアシリーズ「アスタリフト」発売  
店頭販売スタート

2006

2007

**2007**

サプリメント「メタバリア」誕生。



# LSソリューション(コンシューマーヘルスケア)

化粧品

サプリメント

2011

ベースメイク化粧品市場に参入「アスタリフト ベースメイクシリーズ」発売

2014

ヘアケア市場に参入「アスタリフトヘアケアシリーズ」発売

2019

男性用化粧品市場に参入  
男性用スキンケアシリーズ「ASTALIFT MEN (アスタリフトメン)」発売

ASTALIFT



ASTALIFT MEN



Lunamer

Lunamer  
ACcresc.  
by ASTALIFT

2015

2015

当社初の機能性表示食品として「メタバリアスリム」をリニューアル発売

2020



# CRO(事業推進室)

創薬支援CROの全体戦略を立案・推進する「CRO事業推進室」を2023年4月1日に新設し、新たな医薬品のシーズ探索や有効性・安全性評価などのサービスを提供。製薬企業をはじめとする顧客の創薬研究を強力にサポートしていく。

**CRO** : **C**ontract **R**esearch **O**rganization (医薬品開発業務受託機関)

製薬会社が医薬品開発の為にを行う治験業務(臨床開発)を受託・代行する会社・組織。

探索研究(初期)

探索研究(後期)

非臨床試験

臨床試験

申請

承認

上市・販売

リード薬剤

開発候補薬剤

開発薬剤

製品(医薬品)

**非臨床CRO(in vitro(細胞) | in vivo(生体/動物))**

創薬研究(薬剤デザイン・サンプル作成・解析)、薬効薬理評価、安全性試験等を担当



薬効薬理評価

薬物動態評価

(吸収、分布、代謝、排泄)

安全性評価

(遺伝毒性、生殖毒性、心毒性等)

**臨床CRO (ヒト)**

臨床試験の推進をサポート。  
医療機関との調整、データマネジメント等を実施

**CDMO**

候補品処方 検討

開発候補品 製造

開発薬剤 製造

医薬品 製造

Target

# マテリアルズ

## 高機能材料

- 電子材料
- ディスプレイ材料
- 産業機材
- ファインケミカル
- 記録メディア

— 他高機能材料

## グラフィックコミュニケーション

- グラフィックコミュニケーション
- インクジェット

## 高機能材料(電子材料)

半導体市場は成長が続く中、コロナ禍による半導体供給不足が発生し、サプライチェーンの課題が顕在化。経済安全保障の観点から、国家主導の産業政策により、半導体工場の自国誘致や国産メーカー育成の趨勢。

〉 半導体市場の成長は更に加速。

- ・ **アフターコロナのデジタル革命**

今後エッジコンピューティング・アプリケーション・デバイス(自動運転等)での新たな半導体需要の成長が見込まれ、米韓台が市場を席巻する形で引き続き右肩上がり成長(2030年約100兆円)。

- ・ **半導体材料の需要増**

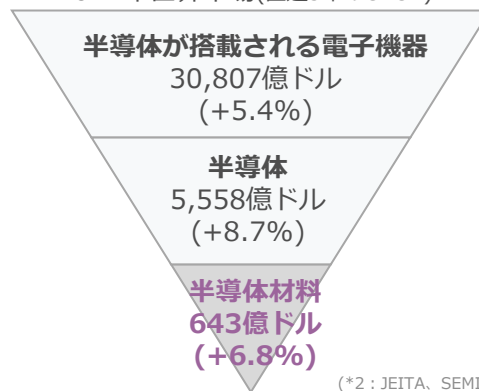
先端半導体のパッケージング技術の進化や半導体需要の拡大により、**CAGR9.4%**<sup>\*1</sup>で成長する見通し。

(\*1: 富士キメラ総研データより)

〉 **経済安全保障の観点から、新次元の国家間の産業政策競争が激化。**

米中技術覇権対立や半導体供給不足等を背景に、国家戦略として先端半導体の国産化や輸出管理等を強化し、安定供給体制を整備。

2021年世界市場(直近5年のCAGR)<sup>\*2</sup>

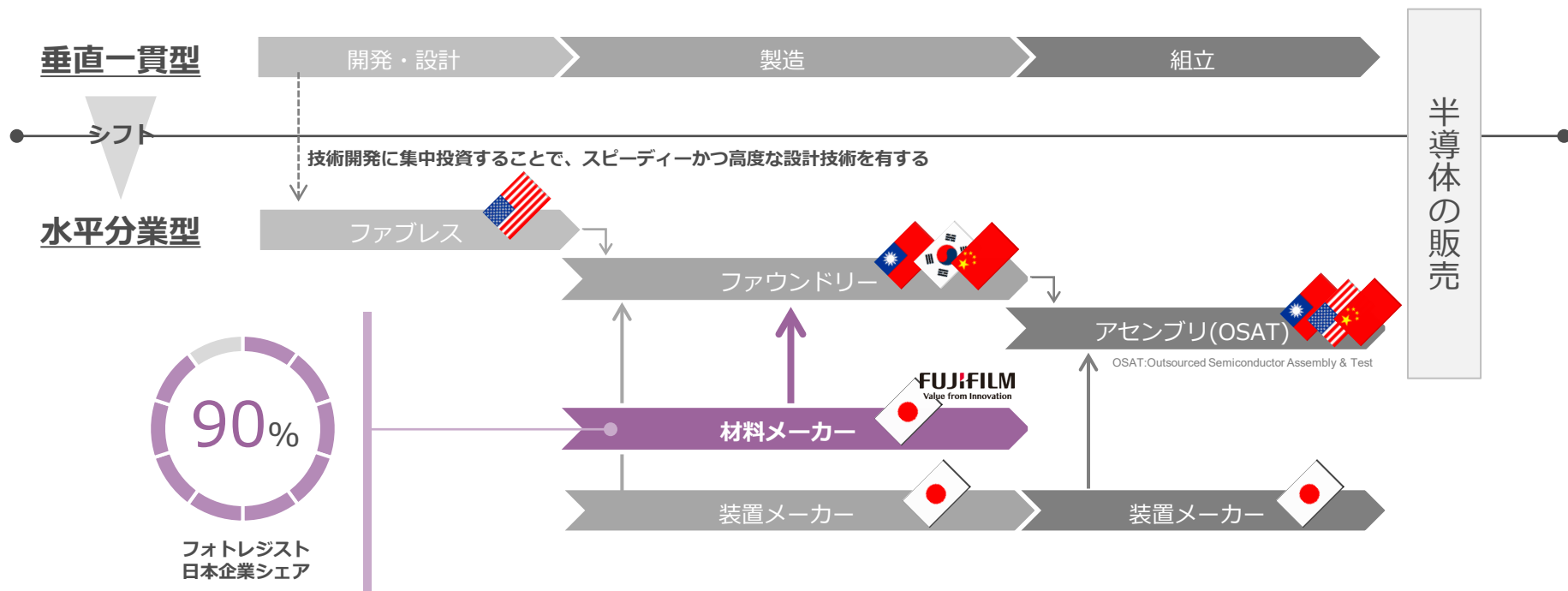


(\*2: JEITA、SEMIレポートより当社試算)

# 高機能材料(電子材料)

巨額の設備投資がかかる半導体業界は、2000年代から水平分業が拡大した。

## 半導体産業で日本企業の強さを発揮する“材料”と“装置”



# 高性能材料(電子材料)

## 半導体の製造過程を支える材料を幅広く展開

### 「前工程」(ポジ型の場合)

### 「後工程」

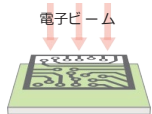
#### ① フォトマスク作成

ガラスでできたフォトマスクの基板に  
フォトマスク用レジストを塗布。

##### フォトマスク用レジスト



電子ビームを当ててフォトマスクの基板に回路パターンを焼き付ける。



不要になったフォトマスク用レジストを剥離。



完成したフォトマスク

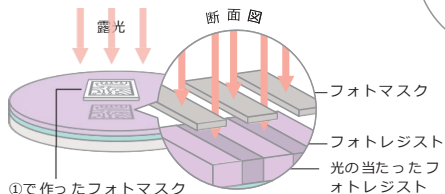
#### ② フォトレジストを ウェハーに塗布

半導体の土台となるウェハー上に電気を通さない絶縁膜、さらにその上にフォトレジストを塗布。



#### ③ 露光

①で作ったフォトマスクを②のウェハーにかざし、その上から光を当てる(露光)。これにより、フォトレジストに回路パターンを焼き付けていく。

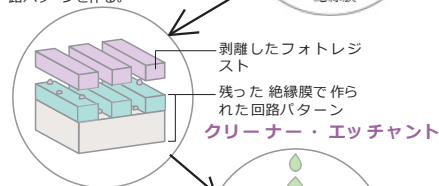


#### ④ 現像・エッチング

③で光の当たった部分を現像液で溶かし、その下の絶縁膜を除去(エッチング)。



その後、残ったフォトレジストも剥離することで、ウェハー上に回路パターンを作る。



クリーナー・エッチャントを使って剥離しきれなかったフォトレジストなどを取り除く。

#### ① フォトマスク用レジスト

回路パターンの“金型”となるフォトマスクの製造に必要な材料。

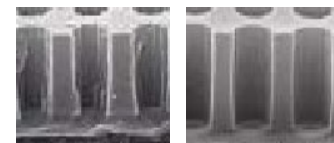
#### ② フォトレジスト

回路パターンを作成する工程に不可欠な感光性ポリマー材料。



#### ④ クリーナー・エッチャント

エッチング後にゴミなどを除去する各種洗浄液など。



Before (left) and after (right) cleaning

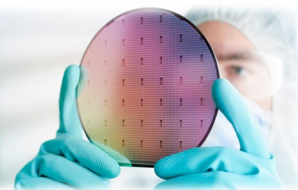


# 高性能材料(電子材料)

## 半導体の製造過程を支える材料を幅広く展開

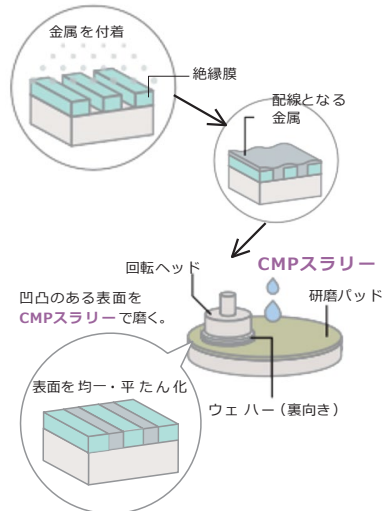
### 「後工程」(ポジ型の場合)

完成



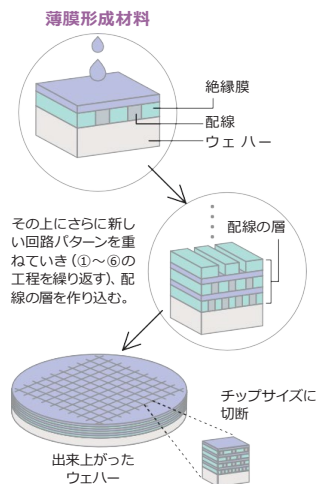
#### ⑤ 配線を加工し、表面を平坦化

回路パターンの中に配線となる金属を付着させる。



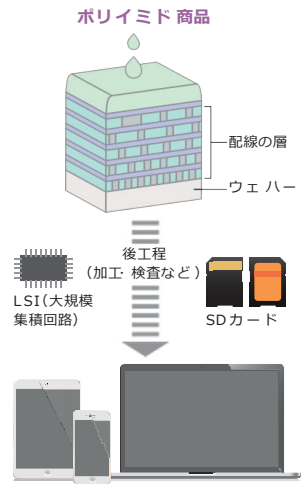
#### ⑥ 絶縁膜を形成

半導体の精度低下を防止するための薄膜形成材料を塗布。



#### ⑦ 半導体回路の保護

チップ一つひとつにポリイミド商品を塗布して保護膜を作る。



#### ⑤CMPスラリー

固さの異なる配線や絶縁膜が混在する半導体表面をミクロン単位で均一・平滑にする研磨剤。

#### ⑥薄膜形成材料

低誘電率の絶縁材料。配線間の絶縁部が狭くなることによって発生する半導体の動作速度の低下などを防ぐのに使用される。

#### ⑦ポリイミド商品

高い耐熱性や絶縁性を誇る化合物で、半導体の保護膜として使用される。また、高速・高機能化するICチップの再配線層材料としても使われ、用途を拡大している。

#### プロセスケミカル

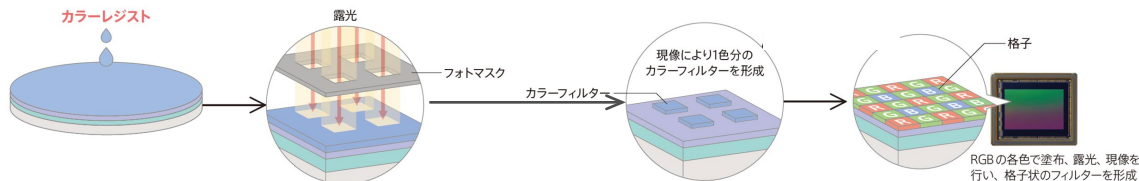
半導体製造の洗浄・乾燥工程で異物を除去したり、エッチング工程にて金属や油脂などを取り除くために使用する化学薬品。

# 高機能材料(電子材料)

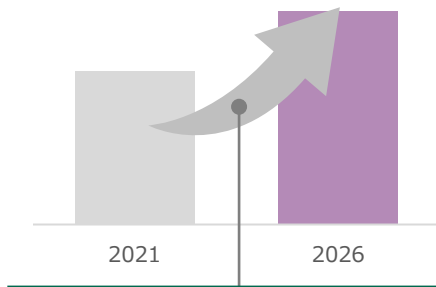
## イメージセンサー用カラーフィルター材料

デジタルカメラやスマートフォンに搭載されているイメージセンサーに用いるカラーフィルターを製造するために必要な着色感光材料製品

土台となるウェハー上にカラーレジストを塗布する。



### イメージセンサー用カラーフィルター材料市場



2021年  
140 億円

CAGR  
+ 7 %

2026年  
195 億円

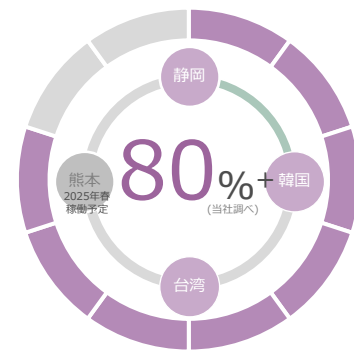
(当社調べ)

- モバイル領域
- 車載
- ファクトリーオートメーション(FA)
- 監視(セキュリティ)
- IoT

### 当社シェア及び製造拠点

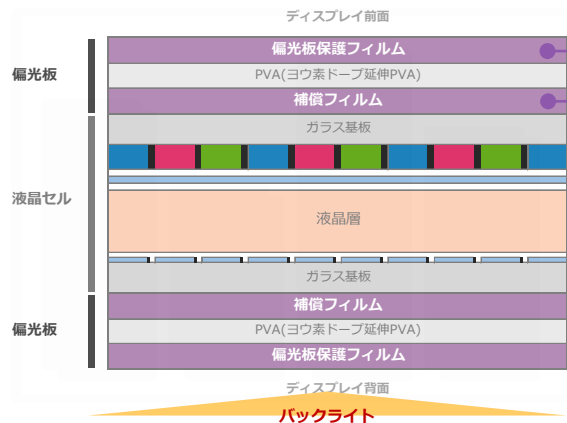


高い品質基準を求められる当製品を安定的に生産・提供し、トップメーカーとしての供給責任を果たす。



# 高性能材料(ディスプレイ材料)

## 当社の主要製品



**偏光板保護フィルム(プレーンタック)** 液晶方式の違いに関わらず使用される。  
**補償フィルム**

### 〉 WVフィルム

TNモードの視野角を広げるための補償フィルム。当社がシェア100%。

### 〉 VAフィルム

VAモードの偏光板において視野角やコントラストなどを向上させる機能を持つフィルム。

### 〉 IPS用フィルム(Z-TAC)

IPSモードの偏光板において斜め方向から画面を見た際の色味変化を抑える機能を持つフィルム。

## 液晶方式の違い

液晶パネルの駆動方式は3つのモードに分かれる。各モードの弱点を補う、もしくは品質向上のために「補償フィルム」が使われる。

	TN*1モード	VA*2モード	IPS*3モード
使用される当社製品	WVフィルム	VAフィルム	Z-TAC
コントラスト	○	◎	△
視野角(補償フィルム使用による変化)	×→○	×→○	○→◎
光利用効率	◎	○	○
製造コスト	低	中間	高

\*1 TN: Twisted Nematic (ねじれ配向)

\*2 VA: Vertical Alignment (垂直配向)

\*3 IPS: In-Plane Switching (水平配向)

:

## 高性能材料(ディスプレイ材料)

### 液晶パネル向けの既存フィルムにより安定的な収益を確保し、有機ELパネル向け等の新製品の拡販で売上成長

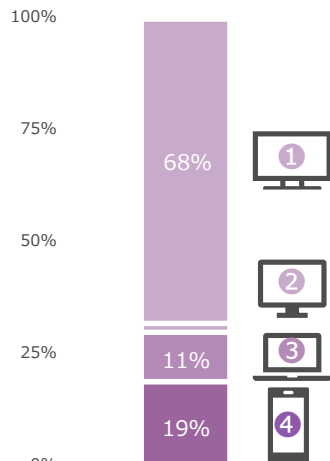
#### • テレビ・モニター用

TVの大型化により液晶パネル需要は面積ベースで緩やかに成長。プレーンタック、Z-TACおよびVA用フィルムの更なる拡販を推進。

#### • 中・小型ディスプレイ用

液晶パネル向けには、スマートフォンやタブレットPC向けに薄手プレーンタック、IPS用フィルムを拡販。有機ELパネル向けには、円偏光板用の各種フィルムといった新製品を拡販。

#### 最終製品の面積割合と使用される当社製品の種類



(2021年度当社調べ)

	プレーン タック	WVフィルム (TNモード*1)	VAフィルム (VAモード*2)	Z-TAC (IPSモード*3)
① テレビ	●		●	●
② モニター	●	●	一部採用	●
③ ノートPC	●	一部採用		一部採用
④ 中・小型 (タブレットPC スマホ)	●	一部採用		●

\* 1 TN: Twisted Nematic (ねじれ配向)

\* 2 VA: Vertical Alignment (垂直配向)

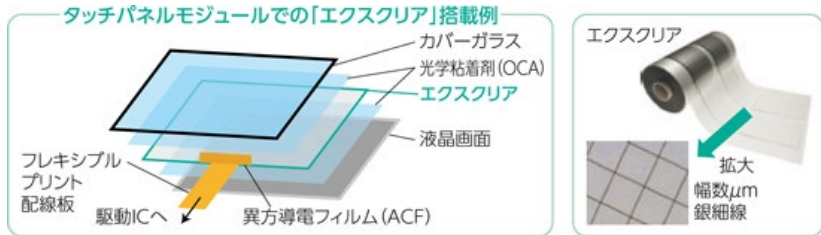
\* 3 IPS: In-Plane Switching (水平配向)

# 高機能材料(産業機材)

## 当社技術を生かした高付加価値製品を新規に開発し事業化を推進

### エクスクリア

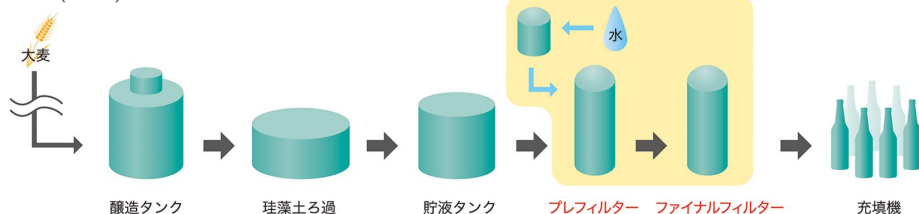
タッチパネル用センサーフィルム。  
ベースとなる透明なPETフィルムの上に銀でパターニングを行うことで、高い透明性と屈曲性を両立。低抵抗で、中大型のタッチパネルにも対応。



### マイクロフィルター

飲料ろ過、電子部品や液晶パネルなどの精密ろ過に使用されるろ過フィルター。

ビール(工程例)



### ガス分離膜

天然ガスを、二酸化炭素等の不純物と、より純度の高い天然ガスとに分離する膜。



### プレスケール

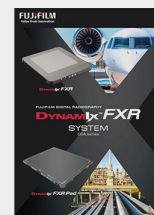
圧力測定フィルム。



### 非破壊検査機材

\* 本製品は、2024年3月期よりヘルスケアセグメントのメディカルシステム事業に移管しています。

工業用のX線フィルムやデジタルX線画像検査システム。



# 高性能材料(ファインケミカル)

富士フイルム和光純薬の持つ先進の技術開発をベースに  
顧客ニーズに応える競争力の高い、高性能・高品質な製品を提供

## エレクトロニクス材料

- ・フォトレジスト用ポリマー
- ・光酸発生剤(WPAGシリーズ)

他



エレクトロニクス材料



高分子材料

## 電池材料

- ・リチウムイオン電池バインダー
- ・色素増感太陽電池用色素(DSC色素)

他



電池材料



医薬・化粧品材料

## 化成品受託製造

様々な技術要望に対し当社が培ってきた高度な技術での受託合成・製造を「より安く、早く、安定的に」提供



合成技術力



生産技術力



原料調達



品質保証

## 高分子材料

- ・アゾ重合開始剤  
(オムツ・自動車用部材等の原材料)
- ・高性能重合禁止剤
- ・光カチオン開始剤
- ・熱伝導性UV硬化樹脂
- ・量産化RAFT剤

他

## 医薬・化粧品材料

- ・増粘剤
- ・被膜形成剤
- ・保湿剤(キュアリベスト、イヴモイスト®)
- ・美白剤(リン酸L-アスコルビルマグネシウム)
- ・抗菌剤(塩化セチルピリジウム)

他

# 高性能材料(記録メディア)

1959年に日本初の業務用ビデオテープを開発して以来、世界中のテープドライブメーカーに対して高性能で信頼性が高い製品を提供

## データストレージ用磁気テープ

- 当社独自技術に基づく「バリウムフェライト (BaFe) 磁性体」を採用したデータストレージ用磁気テープが、市場から高い評価を獲得。
- 世の中全体におけるデータ量の飛躍的増加、クラウドの普及に伴い、磁気テープが見直されており、今後もデータアーカイブ分野での一層の活用が期待される。



Barium Ferrite



Save the Earth  
サステナビリティ

100PBのデータを10年間保存した場合のCO2e排出量

100% Tape vs 100% HDD

**-95%**



Save Cost  
低コスト

10年間にかかる総コスト費用

LTO Technology vs All Disk

**-86%**

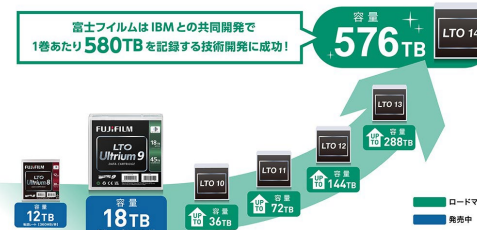


Save Data  
安心・安全

- オフライン管理性
- 高い信頼性
- 長期保管性



Save Future  
将来性がある



# グラフィックコミュニケーション

## グラフィックコミュニケーション事業

### デジタルプリンティング オンデマンド印刷



Jet Press  
750S



Iridesse™ Production Press

- ・インクジェットデジタルプレス
- ・プロダクションプリンター
- ・ワイドフォーマット
- ・インクジェットプリンター

### アナログプリンティング オフセット印刷



FUJIFILM  
**SUPERIA**  
**PS-PLATE**

- ・製版材料
- ・刷版材料  
(PS版、CTP(Computer to Plate) 版等)

①	②	③	①	②	③	④	⑤
データ 入稿	データ チェック	印刷 加工	データ 入稿	データ チェック	製版	刷版	印刷 加工
デジタルプリンティング(オンデマンド印刷)			アナログプリンティング(オフセット印刷)				
不要			必要				
トナー(レーザー印刷)またはインクジェット			インキ				
オフセットに比べると多少劣る			高品質				
一部対応できない場合がある			ほとんど全ての用紙・サイズに対応				
製版不要のためスピーディー			製版工程の分納期がかかる				
少量印刷向き(数十~数百部)			大量印刷向き(数百部~数十万部)				
			版				
			着色				
			仕上がり				
			用紙種類・サイズ				
			納期				
			数量				



# グラフィックコミュニケーション(インクジェット)

## インクジェット事業

- 建材・セラミックなどさまざまな用途に使用される産業用インクジェットプリンター向けヘッド及びインクを提供
- 顧客ニーズに合わせヘッド、インク、画像処理などのソフトウェアを組み合わせたシステムインテグレーションにも注力

### 富士フィルムの大きな強み「3つのコア技術の統合化」



Printheads

富士フィルムの先進技術をフル投入することで世界最高水準のヘッド性能を実現



Inks

安定した印刷を支える  
高次元な顔料分散技術



image  
optimization

インクとヘッドのポテンシャルを  
最大限引き出す画像処理技術

- Raptic技術  
印刷本紙に高精細な画像を形成
- EUCON技術  
インクのにじみとにおいを抑える



## ビジネスイノベーション



● オフィスソリューション

● ビジネスソリューション

# ビジネスイノベーション

## オフィスソリューション

強固なセキュリティを強みとする複合機・プリンターや消耗品の販売、保守サービスを通じて、ドキュメントに関わるオフィス向けソリューションを提供

### FUJIFILMブランド複合機・プリンター



ApeosPro C810



Apeos C8180



Apeos C7070



Apeos C320z



ApeosPrint C320 dw

## ビジネスソリューション

業種・業務の特性に合わせた、システムインテグレーションやクラウドサービスによるソリューション、複合機管理や基幹業務プロセスの役務代行（BPO）など、課題解決型のソリューション・サービスを提供



Bridge  
DX Library

 Dynamics 365

# ビジネスイノベーション(ビジネスソリューション)

## ビジネスソリューション

お客様にワンストップのDXサービスを提供し、DXの先にあるお客様の成功に貢献する「CHX(Customer Happy Experience)」を実現することで、ビジネスイノベーションパートナーとして成長していく。

お客様が期待する価値  
CHX (Customer Happy Experience)

ITサービスプロバイダーへの進化  
(既存ソリューション/サービスの拡充)

お客様コア業務支援への拡大  
(新規事業開発)



\*MPS (Managed Print Service)

ITO (IT Outsourcing)

BPO (Business Process Outsourcing)

: オフィスの出力環境を最適化し、コスト管理やセキュリティ、ガバナンスの維持強化を行うサービス

: IT戦略の立案とその戦略に基づいたIT環境の導入から運用・管理までを支援するサービス

: 自治体・公共機関/企業向けに基幹業務プロセスの役務代行を提供するサービス

# ビジネスイノベーション(ビジネスソリューション)





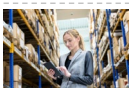

## ① Bridge DX Library

建設業や製造業などの6業種及び業種共通の電子帳簿保存法やインボイス制度対応、セキュリティー強化等の業務課題ソリューションを提供し、お客様を成功に導く懸け橋となる。

Bridge

**DX Library**

各業種への価値提供例

	<b>建設業</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>測量、積算、品質管理情報など工事情報の一元管理による施工管理の効率化</li> <li>社内外の情報連携をデジタル化して施工管理を迅速化、効率化</li> </ul>
	<b>製造業</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>設計情報、CADデータ等の技術情報をマルウェアから保護</li> <li>画像認識システムにより、既存の生産設備を生かしたIoTの実現</li> </ul>
	<b>医療機関</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>レセプト情報のチェックシステムによる査定率低減</li> <li>医療現場のWEB会議の質と効率を向上</li> </ul>
	<b>福祉サービス</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>福祉事業者を狙うランサムウェアからの保護</li> <li>契約業務の効率化とペーパーレスの実現</li> </ul>
	<b>卸売業</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>インボイス制度対応と生産性向上に向けた請求書受領業務のアウトソース</li> <li>名刺情報の共有による顧客情報の属人化の防止</li> </ul>
	<b>公共</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自治体DXにより職員の働き方改革と利用者満足度アップを同時に実現</li> <li>リモートでの窓口対応により、遠隔地でも高品質なサービスを提供</li> </ul>

現在146種類\*の  
ラインアップで展開

\*2023年5月25日時点

**Bridge**  
**DX Library**

業種・テーマで進めるDXパッケージ

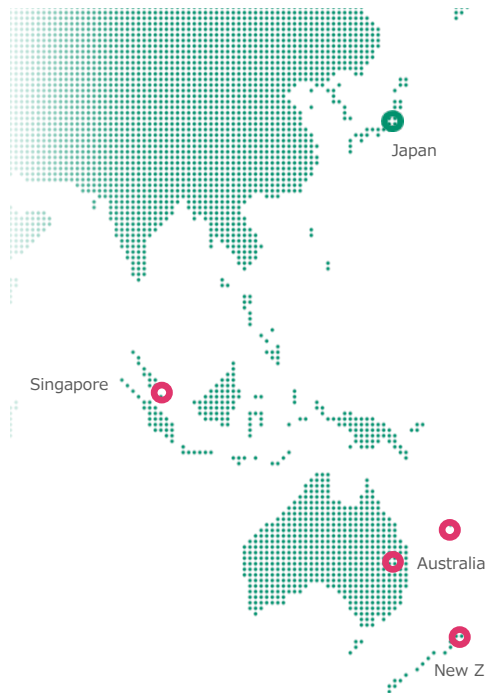


# ビジネスイノベーション(ビジネスソリューション)

## ② 基幹ソリューションビジネス(Dynamics 365)



Microsoft Dynamics365をはじめとするクラウドアプリケーション群を核とした基幹DXソリューションを展開。豪Microchannel社の買収を通して中堅・中小企業を主要顧客とした基幹DXビジネスの海外展開を本格化。



### FUJIFILM

富士フィルムデジタルソリューションズ(株)

日本・タイ  
(2022年1月1日～)

+

### MicroChannel社

Australia・New Zealand  
Singapore  
(2023年3月1日～)

M&Aで新たに市場拡大

Microsoft Dynamics365、SAP、Sageなどグローバルで展開する基幹システムパッケージを含む

**主要基幹システムの販売・導入支援**

導入から運用までワンストップで対応。すべての利用者がデジタルで業務を扱える

**End to Endでのサービス提供**

**受賞歴**

**100+**

Microsoft Solution Partner (旧 Microsoft Dynamics 365 Gold Partner)  
SAP Partner of The Year - ANZ, Excellence Award ANZ - Sage Intacct (ほか)

各種基幹システムの販売・導入支援事業に関する確かな実績と強固な顧客基盤、高度な技術を備えたIT人材が強み

## イメージング

● コンシューマーイメージング

● プロフェッショナルイメージング

# コンシューマーイメージング

競争優位性の高い独自製品で安定的収益を生み出すとともに、写真文化の発展に貢献

## インスタントカメラ“チェキ”

多様な新商品とアプリの投入、異業種との協業で、様々な楽しみ方を提案し、ユーザー層を拡大



## プリンティングビジネス

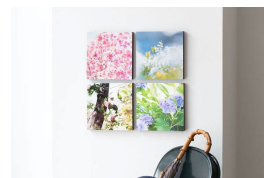
フォトブック・WALL DECORなどの付加価値プリントの販売促進により収益を拡大。



フォトブック



フォトグッズ



WALL DECOR  
写真パネル



Shacolla (シャコラ)  
貼って剥がせる写真パネル



# プロフェッショナルイメージング

- フルサイズの1.7倍の大型センサー搭載の超高画質「GFXシリーズ」と、小型・軽量・高画質の「Xシリーズ」の2本柱で、特徴あるミラーレスデジタルカメラのラインアップを確立
- 高い光学技術、精密加工・組立技術を武器に、4K・8K対応の放送用レンズ等、高付加価値な成長分野に注力すると共に、監視・計測分野やデジタルサイネージ分野での「画像・映像ソリューションビジネス」を推進

## デジタルカメラ



GFXシリーズ



Xシリーズ



交換レンズ

## 放送・シネマ用レンズ



## 監視・工業検査用レンズ



## プロジェクター



## デジタルサイネージ



- **富士フイルムホールディングス 株主・投資家情報**  
<https://ir.fujifilm.com/ja/investors.html>
- **決算説明会**  
<https://ir.fujifilm.com/ja/investors/ir-materials/earnings-presentations.html>
- **IRイベント資料**  
<https://ir.fujifilm.com/ja/investors/ir-materials.html>
- **統合報告書**  
<https://ir.fujifilm.com/ja/investors/ir-materials/integrated-report.html>
- **サステナビリティレポート**  
<https://holdings.fujifilm.com/ja/sustainability/report>

**FUJIFILM**  
Value from Innovation

90<sup>th</sup>  
そして  
その先の  
未来へ 100